

# 有水中学校だより



令和6年4月8日

## ☆お世話になります。

本年度の定期異動で有水中学校に赴任しました校長の上徳浩太郎です。

有水中学校は、こども園、小学校との連携を行い、スポーツフェスタに取り組んだり、少人数の利点を生かして、温水プールでの水泳指導などを行っていると感じました。この有水地区でしかできない取組があり、素晴らしいと感じました。

また、4月4日にはPTA三役会にも参加させていただきました。奉仕作業では、声をかければ、様々な道具や人材がすぐに集まる協力的な地域であると感じました。

これから生徒や地域の方々のために、どのようなことができるのかを考えながら、発展していけるように精進して参りたいと考えています。どうぞよろしく申し上げます。



## ☆始業式にて

始業式で、新3年生の森山さんが、

①自分は人前に出て活動することは得意ではないが、これまでの経験を生かして、スポーツフェスタの実行委員長や生活委員長として、いろいろな場面で頑張っていきたい。②勉強をがんばりたい。1日2時間を目標に、復習を重点的に取り組みたい。③この1年を自分を成長させる1年としたい。と話してくれました。

新しいスタートに向けて、素晴らしい思いをもっているのだと思い、うれしくなりました。また原稿を見ることなく立派に発表してくれました。これこそが、人前に出て自分を高める方法だと感心させられました。

私からは、太さや長さが同じ2本の竹を提示して、以下のような話をしました。

『この2つの竹には、1つだけ違うところがあります。実は、1つの竹には、節があります。』

節は、竹の成長過程で茎の間に出来るもの、竹を支えたり、竹の強度を高めたりする役割があります。よく節目といわれることもあります。節があることで、竹は折れにくくなり、また同時に柔軟性も保持します。節のない部分の竹は、折れやすくなるのです。

この節が、君たちの学校生活でいうと、学期の初めや終わり、いろいろな行事になります。

しっかりと強い節を作るには、今発表をしてくれた森山さんのように、節目、節目において、自分の頭で、自分にできることを考えたり、こんなことに挑戦しようと行動したりすることだと思います。

だから日頃から、しっかりと考え、判断して行ってください。

また挑戦するためには、勇気が必要です。挑戦しなければ、何も変わりません。挑戦・行動をすることで、失敗することもあります。しかし、今よりも確実に自分が強く、大きくなります。不安に打ち勝つ勇気をもてたことこそが、大切なことだと思います。

だから、有水中の生徒のみなさん、もし小さな挑戦でもやっていっている人がいたら、そっと支えてあげてください。失敗を恐れずに、勇気をもって頑張っている人をいじることなく、ささえあげること、勇気ある行動だと先生は思います。

新年度にあたり、「自分の頭で考える」「勇気をもって挑戦する」

「挑戦している人を応援する」、このことを心がけてほしいと思います。

この有水中学校の生徒たちが、強く、柔軟性を持った竹のように、すくすくと自分の幸せのために頑張ってくれることを期待しています。』

